

飲料用紙容器（紙パック）リサイクルの 現状と動向に関する基本調査

— 2004年度 リサイクルの実態 —

2005年 11月

▶ 回収率が35%を超えました

産業損紙・古紙を含む回収率が2003年度の34.3%から35.5%へと伸びて、35%を超えました。
使用済み紙パックの回収率は24.1%から24.9%と上昇しました。

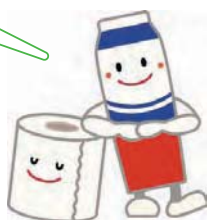
▶ 紙パック古紙は有価物として引き取られています

市町村回収や集団回収によって集められた紙パック古紙は、古紙回収業者、古紙回収問屋、製紙メーカーに有価もしくはは無償で引取られています。

▶ 学校給食用紙パックのリサイクルが進んでいます

学校給食用紙パックの65.3%が再生紙の原料として回収、リサイクルされました。各地の教育委員会等をサポートして、学校で紙パックを洗浄し乾燥する取組みを拡げています。

紙パックとは、
“アルミニウムを
使用していない
飲料用の紙容器”
のことです！



全国牛乳容器環境協議会
COMMITTEE FOR MILK CONTAINER ENVIRONMENTAL ISSUES



紙パックの回収率が35%を超えました

◆ 2004年度 ◆

1) 紙パック回収率 (産業損紙・古紙含む)

35.5 % <2003年度 34.3%>

= 製紙メーカー国内受入量 ÷ 紙パック原紙国内使用量

= 87,496トン ÷ 246,349トン

2) 使用済み紙パック回収率 (使用された紙パック)

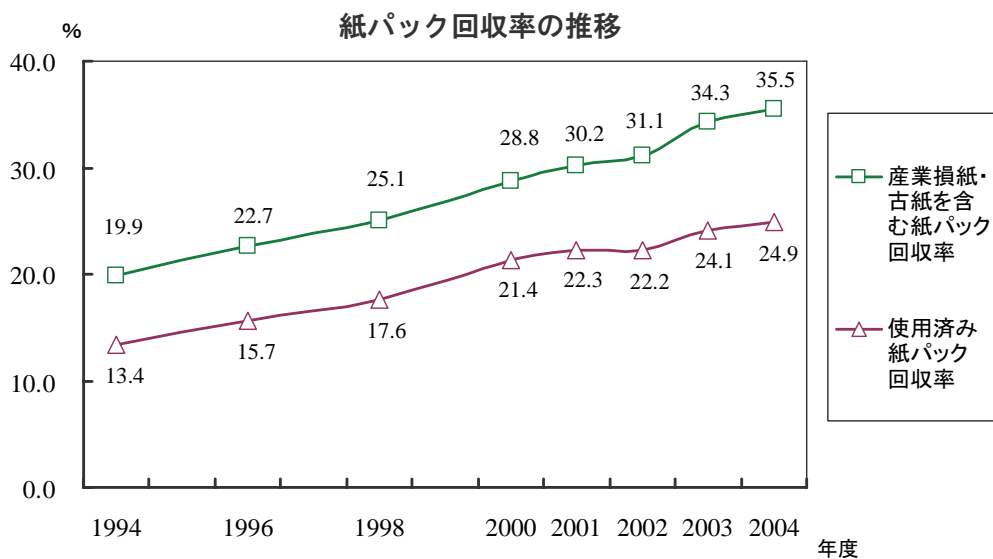
24.9 % <2003年度 24.1%>

= 使用済み紙パック回収量 ÷ 紙パック出荷量

= 53,200トン ÷ 213,243トン

全国牛乳容器環境協議会は1995年より紙パックのリサイクルの実態に関する調査を開始し、その結果を公表してきました。調査開始以来、リサイクル活動は着実に拡大しており、紙パックの回収率は堅調な伸びを見せてきました。

昨年度2004年度も引き続き同様の動きを示しており、産業損紙・古紙を含む回収率と家庭で消費された家庭系紙パックの回収率の両方が約1ポイント増加しました。



注) 1995、1997、1999年度は本調査を実施していないため、回収率がプロットされていない

回収量全体は4.4千ト、5.3%の増加 各主体の回収量が着実に伸長するなか、使用済み紙パックの増加が顕著

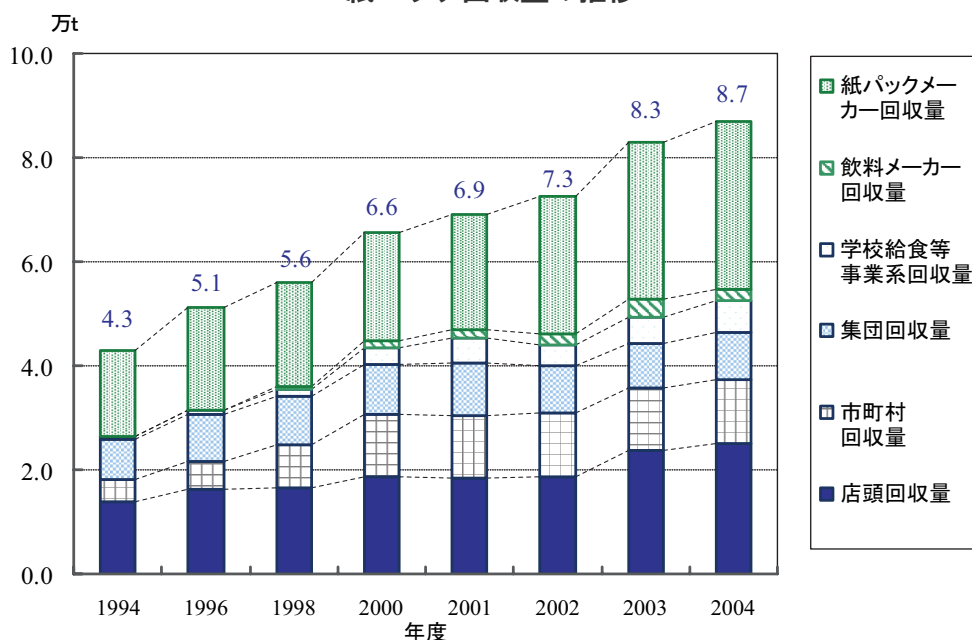
紙パックの産業損紙・古紙（使用前のもの、いわゆるプレコンシューマ）と使用済み紙パック（使用済みのもの、いわゆるポストコンシューマ）の2つの回収量を合計した、回収量全体は87.5千トンとなっています。2003年度と比較すると回収量全体は4.4千トン増加して、5.3%の伸長となっています。

回収量の内訳を見ますと、各主体の回収量それぞれが着実に伸びる傾向にあることがわかります。そして、特にプレコンシューマよりもポストコンシューマである使用済み紙パックの回収量の伸長が顕著であるのが特徴と言えます。

プレコンシューマである紙パックメーカーと飲料メーカーによる産業損紙・古紙の回収量は、34.3千トンとなり、2003年度と比較すると0.6千トン増加、1.6%の伸長となっています。

店頭回収、市町村回収、集団回収等による家庭系の使用済み紙パックの回収量は46.3千トンにのぼり、同じく2.0千トンの増加、4.4%の拡大です。学校給食用牛乳の紙パック等の事業系の使用済み紙パックの回収量は6.9千トンに達しており、同じく1.9千トンの増加、38.7%と大幅な拡大となっています。

紙パック回収量の推移



注) 1995、1997、1999年度は本調査を実施していないため、グラフからは除いた。

紙パック古紙は有価物として引き取られています

市民団体や古紙問屋、製紙メーカー等の努力に支えられ、紙パック古紙は良質の古紙として、他の古紙よりも比較的高値で取り引きされています。今年度のアンケート調査結果でも市町村回収や集団回収された紙パック古紙のほとんどは、有価物として扱われています。

市町村回収では、アンケート調査で紙パック古紙単独の引取価格を設定していると回答があった全市町村の平均取引価格は5.8円/kgであり、全体の99%以上が有価もしくは無償（ゼロ円）で取り引きされています。

主要な取引先・引渡方法別の推移をみると、最も数が多かった保管後に古紙回収業者へ引渡をするときの価格は5.4円/kgであり、昨年度とほとんど変わりません。

集団回収に関しては、紙パック古紙単独の取引価格について市町村から206件の答えがありました。平均取引価格は引渡時が3.9円/kgであり、昨年から少し高くなっています。集団回収も全体の99%以上が有価もしくは無償（ゼロ円）で取り引きされています。

紙パック古紙単独価格の取引先・方式別の取引価格（平均価格）の推移

		(円/kg)		
取引先	取引条件	2002年度	2003年度	2004年度
古紙回収業者	引渡	5.1	5.5	5.4
	市町村数	72	102	107
	持込	4.4	5.2	5.4
	市町村数	57	45	53
市町村回収	引渡	7.3	6.4	8.3
	回答数	36	42	39
	持込	6.2	6.4	5.8
	市町村数	52	29	52
製紙メーカー	引渡	8.0	8.1	6.6
	市町村数	20	13	16
	持込	8.8	7.2	7.7
	市町村数	20	5	21
集団回収 (取引先不問)	引渡	3.4	3.7	3.9
	回答数	115	144	153
	持込	4.6	3.8	4.6
	市町村数	52	47	53

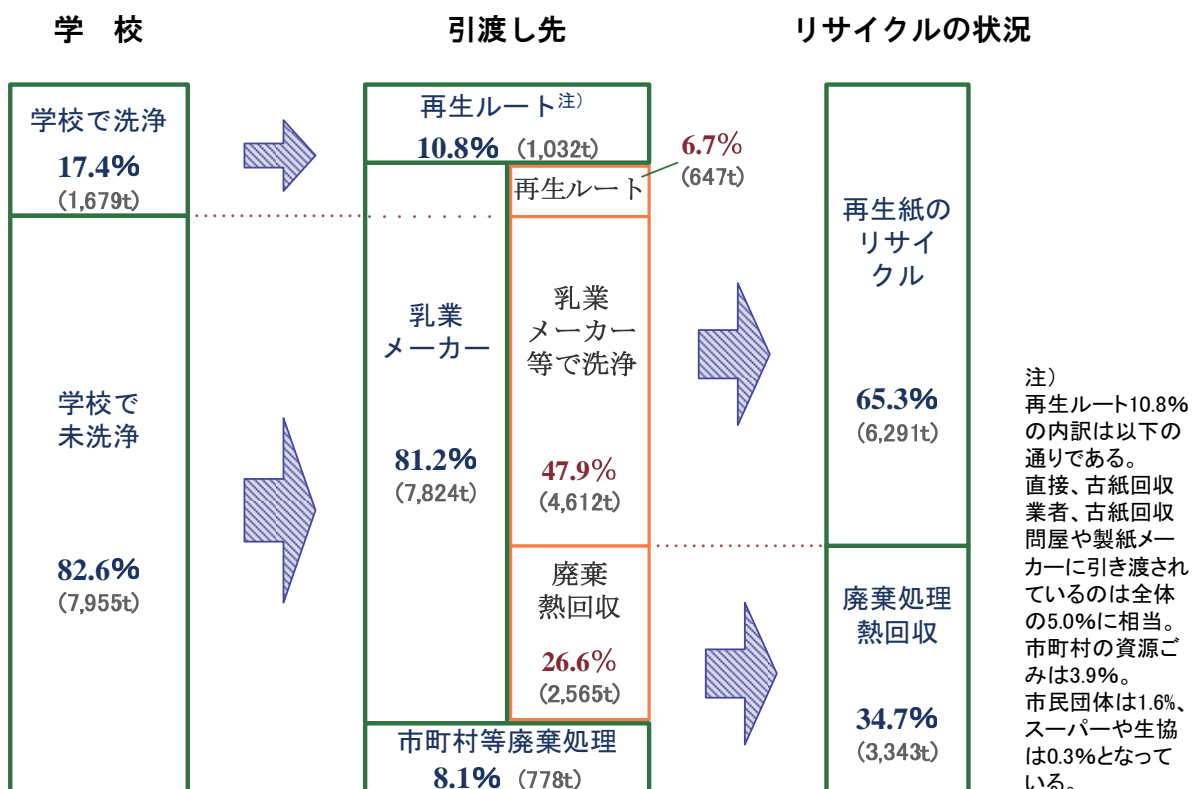
学校給食用紙パックのリサイクルが進んでいます

2004年度の学校給食用紙パックとして利用された紙パック量は9,635トンです。そのうちの65.3%が再生紙の原料として回収されました。2003年度の回収率は50.1%でしたので、大きく上昇しました。

学校で洗浄・乾燥してリサイクルされている紙パックの量は全体の17.4%です。そのうち、学校から直接古紙回収業者や製紙メーカー等へ引き渡されるのが5.0%、学校から自治体の資源ごみ、市民回収団体、生協やスーパー等を経てリサイクルルートにまわるのが5.8%、乳業メーカーを経由して再生ルートにまわるのが6.7%でした。

乳業メーカーを通じてリサイクルにまわる紙パック量は増加する傾向にあります。学校で洗浄・乾燥される紙パックはそれほど多くはありません。全国牛乳容器環境協議会では、各地の教育委員会等をサポートして、学校で紙パックを洗浄し乾燥する取り組みを拡げています。現在、いくつかの県では、学校において洗浄・乾燥してリサイクルにつなげる活動が始まっています。

学校給食用紙パックの洗浄状況、引渡し先とリサイクルの状況



もっと大きく広げよう 学校給食用紙パックのリサイクル

全国牛乳容器環境協議会では、子ども（小学校中高学年）向けホームページ「地球となかよし、見つけた『牛乳パックン探検隊』」のホームページを公開しています。このホームページでは紙パックの原料となる森林資源から輸送、飲料の充填、飲用後の紙パックのリサイクルまでを取り上げて平易に解説しています。

ホームページ→<http://packun.jp/>



紙パックが使われている飲料

下表は、紙パックメーカーから飲料メーカーへの飲料用紙パック販売量推移を示しています。紙パックの販売量は21万トン前後で推移しています。

500ml以上の大型容器が全体の88%となっています。「牛乳パック」とも呼ばれる飲料用紙パックですが、約70%が飲用牛乳に利用されています。近年の傾向としては清涼飲料への利用が伸びています。その一方でアルコール飲料への利用は減少しつつあります。

紙パック販売量の推移

(単位：トン)

		2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度	2004 年度 対前年度比	
飲料用紙パック販売量		209,978	207,453	206,048	211,302	217,782	103.07%
容量	大型(500ml 以上)	183,096	182,709	182,019	186,848	192,510	103.03%
	小型(500ml 未満)	26,882	24,744	24,029	24,454	25,272	103.35%
内容物	飲用牛乳	157,532	149,751	148,995	146,008	151,292	103.62%
	醗酵乳等	6,667	5,863	7,390	11,660	7,372	63.22%
	果汁飲料	25,182	24,008	22,352	22,028	24,592	111.64%
	清涼飲料	13,016	19,501	17,961	22,569	26,714	118.37%
	アルコール飲料	7,581	8,330	9,350	9,037	7,811	86.43%

**飲料用紙容器（紙パック）リサイクルの
現状と動向に関する基本調査**

－ 2004年度 リサイクルの実態 －

発行日 2005年11月

発行 全国牛乳容器環境協議会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-14-19 乳業会館

TEL (03)3264-3903 FAX (03)3261-9176

URL: <http://www.yokankyo.jp/>

本誌は、エコマーク認定の印刷用紙を使用しており、古紙パルプ配合率は100%、白色度は約70%となっています。